



甲斐市立玉幡小学校 令和元年度 学校だより 第7号

チーム玉幡

令和元年7月10日

学校長 丸茂和也

「いのち」とふれあう♪

7月2日(火)に、飼育委員会によるうさぎとのふれあいタイムがありました。2羽のうさぎは、「たま」と「はた」という名前です。多くの子どもたちが、うさぎとふれあいました。小さな命とふれあうことで、みんなの顔がとてもやさしく、うれしそうでした。このうさぎは、毎日飼育委員会のみなさんが、小屋のそうじやエサやりをしてくれています。



また校舎の外を歩いてみると、子どもたちが毎日世話をしているいろいろな花や野菜が、しっかりと生長しており、もう花を咲かせたり実をつけたりしているものもあります。

3年生のやはたいも

なかよしの野菜

なすが大きいです



2年生の野菜



1年生のあさがお



たくさん実りました

植物や動物の命にふれることで、子どもたちはいたわりの心を感じたり、世話をすることで、やさしい気持ちになったり、命のたくましさを感じることができたのではないかと思います。

学校では296人の子どもたちがいて、先生方、また保護者の皆様や地域の方々を始めとするみなさんが、多くの人たちと関わり合いながら、ふれあいながら毎日を生きています。

「川の上流の石と下流の石」についての話を聞いたことがあります。川の上流の石は大きくてごつごつしている、下流の石は全体的に小さくて丸っこくすべすべしている、しかし、もともとは同じものであった。では、どうして形や見た目がそんなにちがうのか考えると、それは上流の石が川の流れと共に川を下ってくる時に、他の石や川の岸とぶつかり合ったり、こすれ合ったりしている。そのうちにけずられて角が取れて、下流を通り海にたどり着くまでには、丸っこくすべすべになる、という話です。

人の心も、他の人とふれあい、他の命や生きる様子にふれていくうちに自分の心が優しくなる、丸っこくすべすべになってくるということが日々あります。そのことが他の命と共に生きることなのだと思えます。命にふれることで、その温かさやたくましさを知ったり、人と自分を大切にすることを感ずることができると、思う機会となりました。

ひびけ♪気持ちのいいあいさつ

7月1日（月）の全校集会で、生徒指導の上杉先生より「あいさつ」についてお話をいただきました。児童会役員のみなさん一人一人のあいさつへの思いや願いなどを聞かせてもらったあと、全校みんなであいさつをかわしました。声の大きさやこやかな表情など、返したくなる気持ちのいいあいさつができました。そして毎朝、児童会役員の皆さんが、学校の入り口3ヶ所に分かれて先頭に立ってあいさつをしてくれています。

学校にいらしたお客様や地域の方などからも、玉幡小学校の子どもたちは、あいさつをよくしてくれて気持ちがいい、というお褒めの言葉をよくいただいています。朝などに門の前に立って子どもたちとあいさつを交換すると、私自身もとても良い、すがすがしい気持ちになります。

あいさつは、「私はここにいますよ。そして、あなたがいることを知っていますよ」「あなたはわたしの仲間だよ！仲良くしたいと思っています」というメッセージだという言葉を目にしたことがあります。あいさつを通して、みんなが笑顔になれる、仲間になれるように…そんな思いをより強くしているところです。

